

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立培遠中学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力, 論理的思考力, コミュニケーション力, 粘り強さ
<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した新しい授業の形態の取組にも慣れてきたように思う。この先大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張ってもらいたい。 地域とのつながりを大切にしている子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 中学校における長期欠席の生徒は全体の9.8%である。(全国平均3.8%) 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり 相手・目的意識をもたせた特別活動の充実 図書館を含めた学習環境の整備

III 自校

ミッション
知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。
学校教育目標
夢を志にチャレンジ
～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～
現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している生徒の割合は、1年76.1%、2年66.7%、3年80.4%である。(前年度 1年66.7%、2年79.6%、3年81.5%) 自分に良いところがあると答える生徒の割合は、1年76.1%、2年74.8%、3年77.3%である。(前年度 1年75.6%、2年88.3%、3年79.3%) 長期欠席生徒は全体の9.8%である。(前年度4.3%)※全国平均3.8% 日常生活で、生徒会活動を中心に問題発見、解決することが定着してきた。 一部の生徒で SNS を中心とした人間関係のトラブルが当事者同士で解決できず、大きなトラブルになることがある。(前年度より増えている) <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習では、SDGsの実現や取材活動を通して、問題解決学習が定着してきた。 一人一台のChrome book を活用し、多様な授業方法や評価法にチャレンジしている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○課題発見力	○論理的思考力	○コミュニケーション力	○粘り強さ
めざす子ども像	Well-beingの実現			
	たんぼぼ魂, SDGs, 自分で決める, 生活五訓(挨拶・時間・美化・服装・姿勢), 感謝の気持ちを持つを意識して生活し、これらの力を高めていく。			
中1	身の回りの事象について、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、その達成に向けて何をすればよいか考えることができる。	お互いの違いを理解し、協働することができる。	困った時にあきらめず、周りに聞きながらでも、現状を改善するために努力することができる。
中2・3	身の回りの事象について、多面的・総合的に考えて、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、当面の計画を立て、その達成に向けて努力することができる。	チームとしての立場の違いを理解し、お互いを活かしながら協働することができる。	苦境に立たされた時に自暴自棄にならず、現状を改善するために努力することができる。
研究	テーマ	学ぶ楽しさを実感しながら、主体的に学びに向かい、力を育む授業づくり ～ 主体的な学びに向かう問い(本質的な問い)や学びを深める振り返りを通して ～		
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学び・深い学びを促す質の高い問い 学びを深める振り返り 		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が「もっとやりたい」「できた」「わかった」と実感する授業 ○生徒の思考を促す課題解決型の授業とその延長にある問題解決型の授業 ○協働的・対話的な展開を意識した授業 ○「指導と評価の一体化」のための学習評価を生かした授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立培遠中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 ₀ を ₁ 達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 ₀ を ₁ 達成 評価評価	総合 評価評価	改善方策	
1	主体的に学ぶ力 の育成	★	見 直 し	主体的に学ぶ態度 を育む。	▽生徒が意欲的に探究 できるような問いや 単元づくりを行う。 ▽生徒が自分の学びに ついて振り返り、自己 調整する場面を設け る。	△「もっと学びたい」「授 業が楽しい」生徒の割 合を 80%以上にす る。 △授業の中で、学んだこ とを振り返っている 生徒の割合を 80%以 上にする。								
			見 直 し	自らの目標を設定 し、学び方を考えな がら学力の定着を 図る授業づくりを 行う。	▽自分で選んだり、決め たりすることができるよ うな授業場面を 設定する。	△自分で考えた方法で 学んでいる生徒の割 合を 85%以上にす る。 △授業で学んだことが 使える生徒の割合を 85%以上にする。								
1	自らに自信を 持つとともに、 感謝の気持ち を持つ心の育 成	★	継 続	自分で決め、実行す ることを通して自 信を育む。	▽生徒主体となって、自 分たちの生活をより よくするための目標 や活動内容を考え、誰 もが過こしやすい学 校、誰もがやり直しが できる学校にしてい く。	△学級や委員会等で自 分の役割を果たして いる、自分には良いと ころがあると答える 生徒の割合を 80%以 上にする。								
			新 規	感謝の気持ちをも った言動をしよう とする態度を育む。	▽自分から感謝の気持 ちを伝える機会を仕 組む。	△自分から感謝の言葉 (ありがとうなど)を 発している生徒の割 合を 80%以上にす る。								
1	自分の生活を 律するたくま しい心と体の 育成		見 直 し	体を動かすことの 楽しさに気づき、自 ら体力づくりに取 組む態度を育む。	▽体育の授業で、個々 の体力向上のため に、いろんなトレー ニングを実践し、取 り組ませる。 ▽体育的行事を、生徒 にとって運動が好 きと思える取組に なるよう見直す。	△体力向上のために、自 分で努力している生 徒の割合を 70%以 上にする。 △体育的行事における生 徒の満足度を 90%以 上にする。								
1	教職員がやり がいと充実感 をもち、元気に 働くことがで きる環境づく り		見 直 し	教職員一人一人が 主体的に学校運営 に参画しようとす る意識を育む。	▽ICT 機器の活用によ り、業務の改善をはか る。 ▽会議を勤務時間内に 設定する。 ▽各自が自己研修計画 を作成し、授業等に取 組ませる。	△時間外勤務時間が 45 時間を超える教職員を 0人にする。 △仕事に意義とやりがい を感じている教員の割 合を 85%以上にする。 △授業づくりを行う時間 が確保できている教員 の割合を 75%以上に する。								

1	地域・保護者から信頼され、通わせてよかったと思われる学校づくり	見直し	地域・保護者からの満足度の高い学校運営を行う。	▼積極的に学校の活動を地域・保護者に発信する。 ▼地域の公園の管理や環境活動など持続可能なまちづくりを教育課程に位置付ける。	△学校の取組がよくわかると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △子どもは学校生活に満足していると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △地域を住みよいまちにしていくために貢献していると答える生徒の割合を70%以上にする。														
---	---------------------------------	-----	-------------------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。